

山口町長

施政方針要旨

6月9日に開かれた有田町定例議会本会議において、山口町長が所信表明を行い、施政方針を明らかにしました。



山口隆敏（やまぐち・たかし）

昭和24年4月1日生まれ
平成7年12月の佐賀県議会西松浦郡区補欠選挙で初当選。3期11年半を務めた。また、県議在任中の平成16年に有田商工会議所会頭に就任し、平成25年10月まで、3期9年を務めた。平成26年4月、有田町長に当選。

◆ 有田の現状

■ 現在の経済情勢

地方の経済状況は、決して芳しくありません。また、従来日本を支えてきた「物づくり産業」をはじめとする中小企業は、現在、非常に厳しい状況に置かれています。規制緩和により、大資本がどんどん市場に参入してきています。規制緩和は確かに必要ですが、それに対応するための準備も必要です。現在のような急激な緩和に対しては、成すすべがない状況でも

あります。

また、グローバル化という大きなファクターもあります。このグローバル化という点、TPPの問題が話題になります。

かつて日本は加工貿易立国で、世界の市場に輸出していました。しかし、固定相場制から変動相場制に転換してきから、この構造が変化してきます。たぐさんの中小企業が、この30年で姿を消しました。やはり、世界の自由な競争にさらされるのが、グローバル化の一番厳しいところだ

もありません。

今の世の中では、ほとんどの産業が自由化されています。ホームセンターなどに行くと、日本製の商品はほとんど見当たりません。日本の製造業が世界と戦い、生き残っていくためには、さまざまな努力をしなければならない状況です。

1次産業である農林業を見ても、非常に厳しい状況には変わりありません。国内には悠々と経営できている生産者もおられますが、それはほんの一握りです。

かつて、木材の自給率は9割に達していましたが、規制緩和された現在では、一桁に落ち込んでいます。食料自給率も、やはり低水準となっています。

このような状況では、生産者を守るための支援を行政がしっかりと行わないと、前に進むことができません。

一方で、政府の経済対策の中心はというと、「転業支援」や「創業時の経済的支援」といった、現在の経済界自体を一新するような取り組みが行われていません。

■ 世界の成功例から 有田の活路を考える

このような社会情勢の中で、私たちはどのような取り組みを行っていけば良いのか。

世界で生き残っている産業を見ると、その答えも見えてくるかと思えます。

以前、私は北イタリアにある会社を見学しました。イタリアの製造業者は、大半が従業員数10人ほどの小規模業者です。それにも関わらず、産地としての力は世界で一、二

を争っています。イタリアでは、従業員それぞれが技術や感性を磨き、消費者を満足させる商品を製造しています。

世界で有名な産業としては、スイスの時計産業も挙げられます。スイスの時計産業は、デジタル時計の普及に伴い、一時は壊滅的な打撃を受けました。しかし、現在では、その売上高は日本の10倍を超えています。多くの会社力が合わせて、技術力、販売力、企画力を充実させ、復活を果たしたのです。

これらも視界に入れたうえで、「有田焼はどのように生まれ変われるのか」をしつかり考えなければいけません。先進国の、高い社会コストと生産コストの中で、どのように生まれ変わることができているのか。これが大きな課題であると思っています。

■先人の取り組み

どうやって有田焼を後世に残していくのか。これは永年に渡る有田の課題です。50年前、350年祭にあたってこの課題に取り組んだ先人たちは、大きく4つの柱を立てました。

①町史の編さん
それまで受け継がれてきた歴史を顕彰するために、産業を含めた、さまざまな分野の町史を作りました。これによって、連続と受け継がれてきた有田の歴史を振り返ることができるようになりました。

②人材育成

産業区として有田が繁栄していくために一番大切なのは「ひと作り」でした。有田を愛し、やきものを愛し、そして技術を研さんする人材を育成するために、「窯業大学校」を作りました。

また、窯業の幅を広げるため、それまでの窯業試験場を「窯業技術センター」とし、研究の枠を拡大しました。これには、「将来に向けて有田が世界で必要とされる町になるため、さまざまな研究開発をしよう」という意図がありました。

③陶磁美術館の建造

やきものに関するさまざまな技術・芸術を発信するために、国際陶磁美術館を造りま

した。現在の県立九州陶磁文化館は、先人たちが、自分たちの仕事を将来につなげるための努力と思いを形にしたものです。

④「先人陶工之碑」の建設

300年祭のときは、「陶祖 李参平之碑」が、陶山神社の上にできました。350年祭のときは、無名の陶工たち、そして、やきものに携わった人々への感謝を込めて、泉山に「先人陶工之碑」が造られました。

当時の350年祭実行委員会は、350年を「次代へ向けてのスタート」と位置づけ、「後世まで有田焼が受け継がれていくように」との想いで、いろんな事業を行ったのです。

■400年祭に向けて

こういう想いを受け継いで、私たちは、400年という節目の年を迎えることになります。

私たちには、この400年事業を、今から50年後、450年を迎える人たちのために、意義あるものとする責



▲先人陶工之碑（泉山）前では、毎年「先人陶工感謝祭」が開かれている。

任があります。

そのために、解決すべき課題はたくさんあります。しかし、町民の皆さんが心を一つにすれば、必ずできる。そのことは確信できます。

私が若いとき、触れた言葉があります。「できる、できる、必ずできる」。

できないと思うからできない。何事も、やる気があれば必ず達成できます。

この有田の町が一体となつて、400年事業を成功させたい。皆さんの知恵を集め、先輩たちの意見を聞きながら、事業を推進していく。そういう意味で、皆さんのご理解とご協力、そして、ご指導を賜りたいと考えています。



▲300年祭のときに造られた、有田焼を創業したとされる李参平公を祀った陶祖 李参平碑。

議会の皆さんは、町民から選ばれた代表です。400年事業を町全体の問題として、これからの夢を育む事業として、皆さんとともに知恵を出していく。そういう機会になればと思います。

■400年祭の展望

有田焼創業400年にあたる2年後、2016年の秋には、世界中から、また日本中から、やきものに関係する人たちに来てもらいたいと考えています。

有田全体を見本市会場にして、有田のすべてを見ていただきたい。そういう思いもあ



▲有田焼 400年の歴史を支えてきた泉山磁石場。「山1つをやきものに変えた」と称されました。



ります。

町全体がこの400年を祝い、町の将来を見据えた、大きなセレモニーにしたい。そういう思いを持って400年事業のスタートを切りました。

この400年祭は一つの契機です。一過性のもではなく、将来の子どもたちのために、しっかりと活かしてほしい。それによって、子どもたちに、未来の有田について、明るい展望を持ってもらえればと思っています。

■ 想いを形に

就任してからまだ2カ月にもなっていないませんが、この間、行政全体を見せていただき、いろんな方々のご意見を聞いたり、いろんな団体にお邪魔する機会を多く得ました。

そういった場面を通じて、私は「いろんな方々の想いを、しっかりと形にしていこう」という決心をいたしました。町民の皆さん、業界の皆さんが、今何がしたいのか、何が必要なのか、何ができるのか。しっかりと考えて、それを形にしていこう。

400年事業は、その絶好のチャンスです。

皆さんが自分たちで考え、自分たちで作りあげていく。もし専門家の知恵が必要になったら、その時に専門家の方を招き入れれば良い。

専門家のアイデアより先に、皆さんの想いがなくてはいけません。そして、皆さんの思いを形にすることで、400年事業を進めることができると思っています。

◆ 町の行政について

■ 役場は

「町民の役に立つ場所」

毎日町の仕事（おもに決裁作業）をこなしていると、いろんなことが見えてきます。行政がやるべきことはたくさんあります。本当にたくさんありますが、抜けている部分もこれまた多い。やはり、原点に戻って、本当に町民の視点に立った組織であってほしい。「役場」とは、「町民の役に立つ場所」と書きます。職員の方々のことを忘れず、町民の方を

見ていてください。私の方へ向く必要はありません。

町民の意見を課でとりまとめ、自分たちでできることを、私に出してもらおう。

「この案件はどうでしょうか」と課長さんたちはよく言われます。しかし、「町民の皆さんからこういう意見が来ています。対応はこうしたいと思っておりますが、良いでしょうか」という風に持ってきていただきたい。

それをやってもらえれば、その場で決裁をすることもできます。

■ 個別的政策

○ 道路の整備

国道に關しましては、今年度は原明の交差点から県境までの歩道を整備します。来年度からは蔵宿の歩道整備を行います。

もちろん、国道を町が勝手に整備することはできませんので、国道事務所にお願いで、近々やっていく予定です。

県道については、山谷牧と二ノ瀬の道路、伊万里有田線

があります。また、原宿―広瀬線を県道に置き換えて、街路整備事業としてやっていくことを検討中です。泉山の道路も、中樽に通じる道路として、四差路にする予定です。

町道に關しては、林道、農道そして一般町道など、皆さんの意見を聞きながら、安心・安全、そして、円滑な通行ができるよう進めていきたいと考えています。

○ 福祉の向上

福祉、介護保険制度ができましたが、これには非常にお金がかかります。

ただ、特に高齢者の皆さんには、生きがいを持っていただきたいし、そのための環境作りを、行政でしっかりとやっていきたいと考えています。

シルバー人材センターなども連携しながら、高齢者の皆さんが参画して生き生きと過ごせる社会を作っていきます。

年に2回ぐらいは健康診断を受診して、健康チェックをしながら、元気に過ごしていただく。



▲「日本の棚田百選」にも選ばれている、
岳の棚田。

高齢者の皆さんが、生きがいを持って長生きすることができ、そういう町にしていきたいと思えます。

○農業の振興

400年事業の中にも入れたいと思うのですが、必ず、有田に特産品を作りたいと思っています。

特産品が作れなければ6次化は成り立ちません。しかも、その特産品については、質・量ともに充実していなければならぬ。

すでに有田町内でも、6次化に向けてまい進している企業がありますが、その事業を見てみると、やはり「質の高いものを、安定的に生産す

ることができるようになって初めて、それを加工・販売することができるようになる」ということを実感します。

有田の特産品を創り出すために、世界中の農産品を集めて試験栽培を行い、この土地に合うものを探す。もちろん、現在栽培されているキンカン、メロン、水菜、アスパラ、

いろんなものも支えていく。夢のある産業には、必ず後継者がいます。有田の農業を、夢のある産業として成長させていきたい。そのために、皆さんの知恵をお借りしながら進めていく必要があると思っています。

○教育環境の整備

施設整備の問題などもついてきますが、教育に関しては、私が一番大事にしたいのは教育環境です。

狼少女のニュースは覚えておられるでしょうか。環境によつて、教育によつて人間は大きな影響を受けるのです。

かつて、佐賀県鍋島藩には、葉隠精神・4つの誓願というのがありました。これが良い

と言っているわけではありません。ただ、鍋島藩で後の明治、大正、昭和期の国を担う人材が育つた要因には、葉隠精神とそれに基づいた教育環境があったことは間違いないでしょう。

もちろん、教育の基本は「読み」「書き」「そろばん」です。語学力などももちろん大切ですが、一番の基本である「読み」「書き」「そろばん」をしっかりやった上で、外国語などには取り組むべきだと思います。

もう一つ大切なことは、子どもたちの良いところを伸ばすこと。一言で言うと、子供たちの夢を育む教育をやっていくことです。

やれること、やれないことはもちろんあります。ですが、子供たちは、有田の将来を担っています。子供たちに人として大切なものをしっかり伝えることを、教育の基本としてと考えています。

○行財政改革

企業だと、まず取りかかる



のは、無駄の削減です。まずは無駄遣いを削っていく。

現在、膨大な金額が無駄に使われています。それは一目見たら分かります。

だから、町が所有する公的な建物、不動産などを、全部チェックします。それと同時に、それをどう有効利用できるか考える。もし活用できないようなら、そこは閉鎖します。そうしなければ、経費がかかってしまう。そういう状況はやはり止めていきたいと思えます。

町民の大切な税金をどういう方向に活かすか、どう有効に還元するかということ、皆さんと一緒に考えていければと思います。

■町政全般について

この町政が日本一のものになるように、町民の皆さんにご協力をいただきたいと思っています。

世界のオンリーワンにならないと、やはり、人も訪れてくれません。町民が「ここが世界の有田だ、さすが自分が住む町だ」という誇りを持って初めて、訪れた人が感動します。そういう町づくりを進めていきたい。

そのために、議会の皆さんと議論をし、笑顔で明るく豊かな町を作るために協力してほしい。

こうお願いして、私の所信表明とさせていただきます。